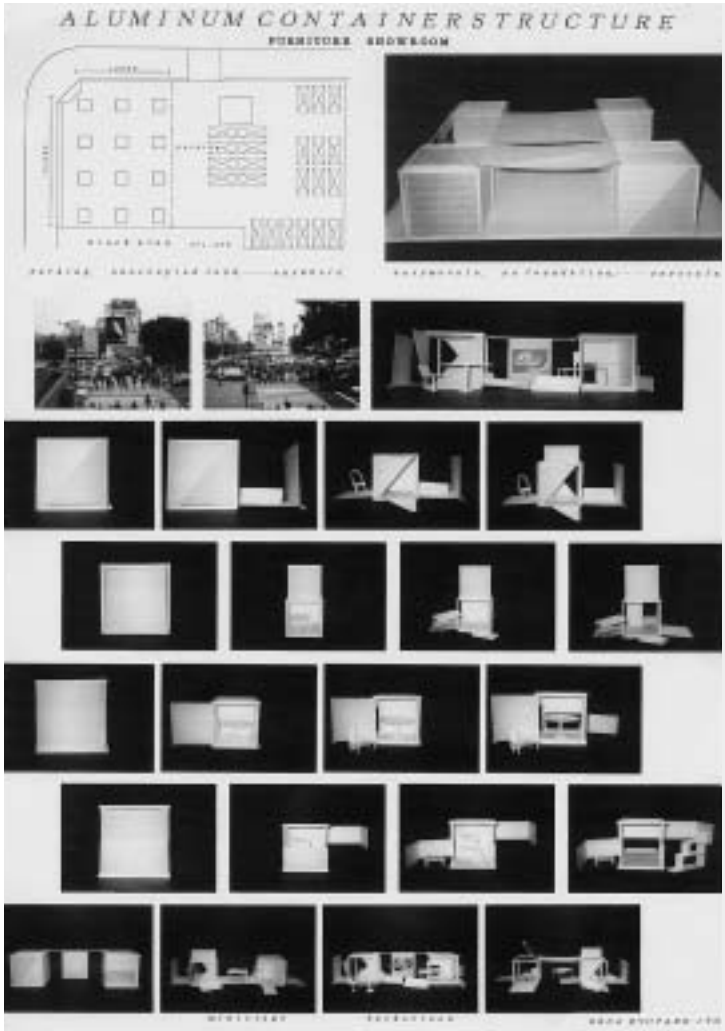
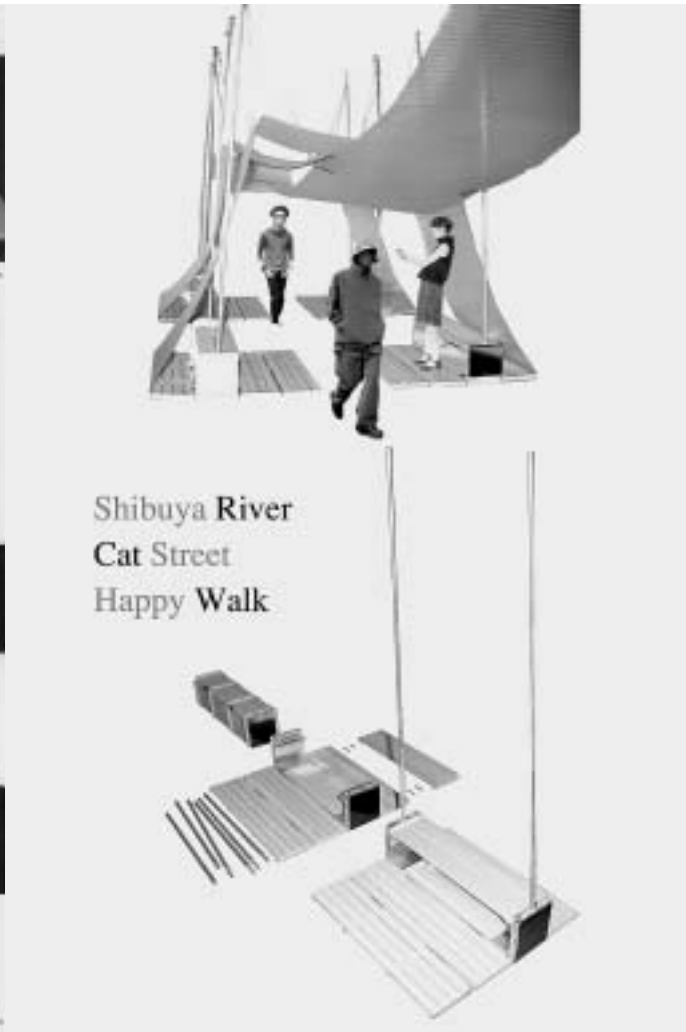
伊藤　隆太郎



黒川　泰孝



設計演習Ⅰ

第１課題
パビリオン

第２課題
コレクターズハウス

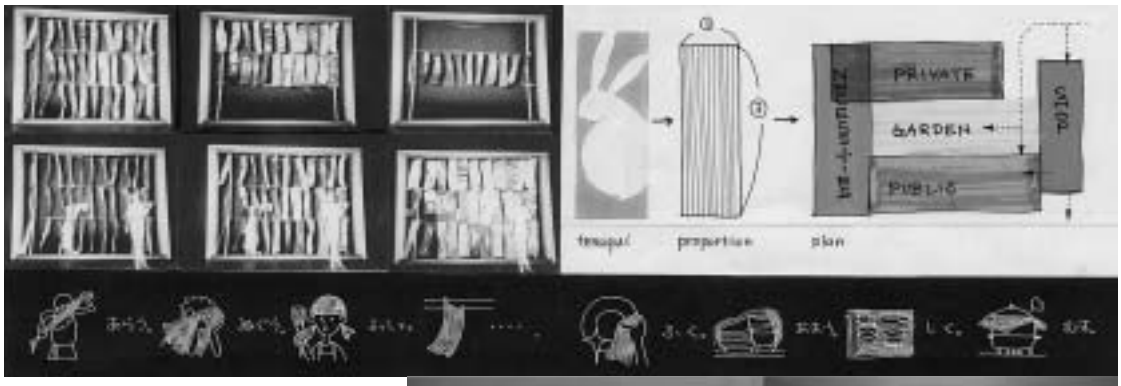
３年２組

担当：
アストリッド　クライン

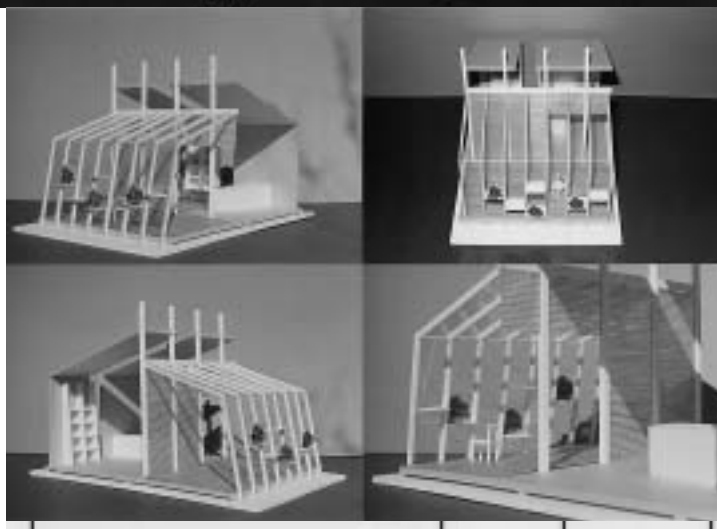
【第１課題】
伊藤　隆太郎
本作品は、東京DESIGNER'S WEEKの家具のショウルームのパヴィリオンとして考えた。素材にはアルミニウムのコンテナを用い、コンテナ自体を家具のデザイナーのショウルームとした。空き地や駐車場などの大きさに応じて、コンテナの数を増減することにより、ショウルーム全体の規模も変化することが可能である。
コンテナの扉を重ね合わせることにより、ステージを作ったり、コンテナの間にバックスクリーンを作ることも可能である。
夜間は、コンテナの扉を閉めることにより、家具を外部から安全に保つことができる。また、移動の際も、コンテナをそのままトラックなどに載せることができるので、移動が容易である。

黒川　泰孝
Shibuya River
Cat Street
Happy Walk
今はキャットストリートと呼ばれる旧渋谷川
かつて川は人々の生活に欠かせない大切な水源だった
時は流れ
川は地上から姿を消し
人は川を覆うアスファルトを歩くようになった
街の記憶
風の軌跡
川の流れ
人のアクション
それらを結ぶ結接点として
それらを示す

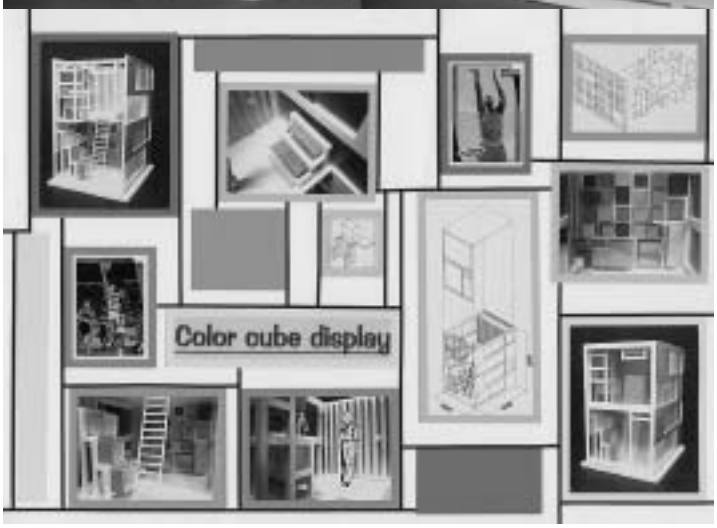
指導＝アストリッド　クライン
第一課題は期間限定、仮設の持



飯山　千里



小野　慎吾



間瀬　喬生

つチャンスや楽しみを引き出して機能的で印象的なローコストのパビリオンを設計するものでイベント内容、使い方は自由。
黒川君の提案は原宿のキャットストリートでのフリーマーケットのためのもの。
この場所はむかし川だったのを埋め立てたところで、通りに小さい公園が点々とあり、ファッションショップが立ち並ぶ。週末は、若者が自分のプレミアものをみちに並べて売り買いしてたりしている。クレバーなポータブルボックスシリーズ案で展開するとそれ自体がディスプレイスペースになり、収納されていたゆらゆらゆれる組み立てポールを取り付けていろいろな布を張ると屋根になる。
ただ日よけの機能を果たしているだけでなく、いくつもの布がカラフルにはためいてここにあった川を生まれ変わらせ、さらにファッションショーの長いキャットウォークのドラマと興奮を生み出すことに成功している。小さな工夫で最大の効果を得るナイスな例。
伊藤君はデザイナーズウイークなどで、大御所達でなく若手のデザイナーが作品を発表していけるためのコンテナ案。これを利用する人は空地やカーパーク、場所さえあれば設置できる。コンテナにはスイングしたり引き出したり、ズラしたりして開閉させる仕掛けで、展示の形態にあわせてフレキシブルに対応させる。そのレイアウトのパターンは限りなく、使い方へのイメージは尽きない。ただ、鉄製というのはちょっと重すぎるという気がする。

【第２課題】

飯山　千里

シンプルな形だけれどいろいろな役をもつ。巻く、覆う、季節を楽しむ……使い手が使うスタイルを自由に決める。この手ぬぐいの魅力に学び、コレクターが手ぬぐいを用いて空間を自由に変えられるシステムを提案する。建築の（手ぬぐいの）開口部の大きさ・形（数・位置）、プライバシーの確保（角度）、雰囲気（色柄）、太陽と風の感触（すかし・なびき）、サイズ（間仕切りの可動）。また、使用しながらの収納方法としても提案する。

小野　慎吾

「えっ、盆栽と一緒にお風呂に入る!?」　この家は、こんなことが可能である。写真の模型は、家の一部を切り取ったものであり、これがカタカナのコの字型につながる。コレクターは、コレクションスペースとライフスペースを隔てる簾（すだれ）を上下することで、自由な空間構成ができる。家のどこからでも盆栽を眺めることができる。さらに室内で盆栽の手入れも可能である。つまり、簾をはさんで隣り合わせに盆栽と住んでいるのである。

間瀬　喬生

ある一人のNBAグッズを収集している人を設定した。ただ収集物を収納する空間ではなく、収納と空間の視覚的形成の機能を備えた何個ものカラーボックスとカラーボードを部屋中に配置する。これらは可動式でよく存在する２次元的ディスプレイから３次元的なものへ移行させている。見やすくディスプレイされた収集物によってコレクターが取り囲まれる。収集物は日光やホコリなどの外敵から守られ、コレクターの魂も守られる。

指導＝アストリッド　クライン

第二課題はコレクターズハウス、コレクターの情熱や集めているモノとの関係があらわれる空間を提案してもらった。
飯山さんは彼女自身が手ぬぐいの熱烈なファンで、多目的に使える単純でいながらデコラティブな布きれをうまく表現に使っている。全体レイアウトも手ぬぐいプロポーションが忠実に守られ、手ぬぐいは上品にたたんで棚に並べるのではなく、画期的な手ぬぐいブラインドとして展示される。さらにちゃんと家事仕事に使えるよう取り外しもできるし、並べ方で空間をガラリと変えることもできる。この手ぬぐいブラインドが光を受けて空間に色を落とし、優しい風がすり抜ける様子には伝統とのチャーミングな接点を感じる。
小野君もまた伝統的なオブジェクト、盆栽を題材にしている。この家はU型になっていて、中庭を囲む部分をサンルームにすることでおざなりに陳列されがちな現代の盆栽に光をあてたところがおもしろい。スライディング窓／棚システムは外に突き出せば展示になり、御年配には辛い冬の日でも室内でメンテナンスできるというもの。各室とは簾のようなもので仕切られていて、どの部屋からも暖かい日ざしと愛する盆栽達を堪能できる、気持ちよさそうな家になった。
間瀬君はバスケットボールグッズと選手カードのための小さな２階建てのスケスケディスプレイボックスで、カラフルな引き出しのいろいろな場所に収納できる。特にバスケットにこだわったデザインではないが、バラエティに富んだ収集物の見せ方のアイディアがおもしろい。